

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

64号 2015年10月17日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DC会館内
TEL 043-222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

すべての怒りを11・1へ 甦らせよう！労働組合

全国各地で国鉄集会を開催

ストライキで侵略戦争を止めよう

安保関連法案をめぐる国会闘争は、労働者の力を目覚めさせる歴史的闘いとなりました。闘いはこれからです。歴史を動かすのは私たちです。

朝鮮半島をめぐる戦争は一触即発の情勢です。8月に行われた米韓軍事演習は、「自衛権行使」を掲げて北朝鮮に対する先制攻撃（作戦計画5015）演習でした。安保関連法は朝鮮侵略戦争に参戦するためです。

韓国では、80万人の労働者を組織する民主労総が、戦争と非正規化を推し進めるパククネ政

権を倒すため韓国全土で3波のゼネストを闘いました。11月14日には「集まろうソウルへ！行こう青瓦台（大統領官邸）へ！ひっくり返そう世の中を！」を合言葉に、10万人規模の大集会とデモが計画されています。

11・1労働者集会には、民主労総が日本の労働者との連帯を求めて大挙参加します。

国鉄闘争の発展

動労千葉・動労総連合は、鉄道業務の外注化・非正規職化反対のストライキを、戦争法反対

のストとして闘いました。

1047名解雇撤回、全面外注化との闘いはこれからです。労働者をモノのように扱う社会が戦争を生み出します。職場で

会社と闘うことと戦争に反対することは労働組合の闘いとして一つです。

連合労働運動はストを労働者から奪ってききました。労働者の力に依拠しない違憲訴訟や落選運動、「国民連合政府」では現実を変えることはできません。安倍が恐れたのは労働者の団結した力です。労働組合のストが現実の戦争を止める力です。

11・1労働者集会には、「ストライキで戦争と非正規職化を止めよう」と訴える唯一の全国集会です。職場から、街頭から、地域から、すべての怒りを日比谷野音に集めよう。



動労千葉 動労水戸

外注化反対スト

数年に及ぶ外注化粉碎決戦を宣言

動労千葉は10月1日、鉄道車両の検査修繕・構内運搬業務の外注化に反対して47人の組合員がストライキに入った。

千葉では3年前に検査業務の外注化が強行され、多数の労働者がJRから外注先のJR千葉鉄道サービス（CTS）へ強制出向となった。JRは「出向期間は原則3年」と言明した。しかし会社は3年が過ぎたにも関わらず大半の労働者に出向延長を命じたのだ。

さらに構内限定免許をとって仕業・構内運搬業務を担ってきた青年部組合員が「出向解除」の名のもとに今まで働いていた

青年の団結で闘う組合を！

神奈川労働者集会に110人が結集

「青年の団結で、たたかう労働組合をつくらう！ 10・3神奈川労働者集会」に110人が参加した。

動労神奈川の青年2人が中村委員長とともに登壇。神奈川に続いて新潟、福島と動労総連合が建設されていることを報告し、「2度の雇止め・解雇を粉碎した」「非正規職撤廃の闘いをパートナーから契約に上げると始めた。環境アセス資本の壁は厚いが団結を拡大していく」と決意表明しました。



11・1全国労働者総決起集会

(日時) 2015年11月1日(日) 正午
(場所) 東京・日比谷野外音楽堂

仕事を奪われたのだ。

「労働者を将棋の駒のように扱うことは許せない。今回のストの目的は、外注化を直ちに中止させ、業務も労働者もすべてJRに戻すことを要求することだ。その時、はじめて雇用と安全を守るができる」——田中康宏委員長は組合員に訴えました。

JR東日本は「国鉄改革のよるなインベーションをやる」「働き方を変える」と公言している。その意味するところは、鉄道業務のすべてを子会社に移し、自らは形式的に鉄道施設や株式を保有する持株会社になることだ。彼らが「外注革命」と呼ぶ究極の外注化だ。

15年間、これに反対して闘ってきた。外注化は、誰も反対せず従うことを前提にしており、と呼びかされた。

労働組合が本気で抵抗すれば必ず止められる。今回のストは数年間に及ぶ決戦の始まりだ。

出向延長弾劾し 動労水戸もスト

動労水戸は9月28日、車両の検査修繕部門の組合員21人が「出向延長発令弾劾、外注化絶対反対」を掲げてストライキを行った。

石井真一委員長が「外注化は全面破綻した。直ちにやめろ」と会社に突き付け、辻川慎一副委員長が「乗客の命を守り、快適な車両を提供する重要な仕事。しかしその皆さんにJRはどういう仕打ちをしているのか。管理者は自分の出世しか考えず、業務に何の責任も取らない。ともに外注化を粉碎しよう」と呼びかされた。

ゼネスト準備する拠点を!

杉並10・1国鉄集会に85人が結集

「ストライキで戦争をとめるぞー安倍ぶつとばせ!」10・1集会を85人の参加で開催した。集会のメインは及ぶ動労千葉・田中委員長の講演である。

冒頭、国鉄闘争全国運動と鈴コン共闘会議の呼びかけ人である花輪不二男さんの開会のあいさつに始まり、さらに国鉄闘争全国運動・東京西部の北島邦彦代表による集会基調と続いた。

田中委員長の講演はテーマとしては二つあり、一つには、①安保国会闘争の総括と展望、②JR資本との攻防、特に外注化阻止闘争の現段階と10・1のストライキの報告、③国鉄解雇撤回闘争の地平とその勝利の展望が示された。総じて現局面における重要な課題についての方針

が提起され「闘いはこれからだ」ということが鮮明になった。二つには動労千葉の歴史をその核心において振り返り、いかにして現在の動労千葉たり得たか、それは反台・運転保安闘争がその土台になったということが強調された。

これについては72年船橋事故の以前から動労本部との「事故は闘争課題となるか否か」の根本的な対立があり、それは即ち当局、資本との関係が非和解であるか否かの対立であった。また団結をいかに継続的につくりだし



ていくかということについて「24時間考え続ける以外にない」と素直に語られた。集会はこの間の国会闘争の先頭に立ち、公安警察の不当弾圧と闘う全学連の特別報告を受け、全国水平同盟杉並支部、星野暁子さん、そして区職、清掃、医療福祉、児童館、鈴コンの現場の労働者が発言に立った。最後のまとめとしてNAZE

職場からの闘いを基礎に

札幌で9・13国鉄集会を開催

札幌で9月13日、国鉄集会を開催し30人が集まりました。「資本や御用組合と闘う中で国鉄闘争を闘う必要性を再認識。労働組合をつくって闘い、新しい社



会を」と開会あいさつは呼びかけました。

動労水戸の木村郁夫書記長が駆けつけて下さり、被曝労働拒否の闘いが原発労働者・除染労働者との団結をつくり出したことを報告しました。「この闘いで社会を動かしているのは労働者階級であり、労働者には社会に責任をとる力がある」「労働者の団結した闘いだけが未来を切り開き戦争を阻止する。今こそ北海道に動労総連合の旗を立てよう」と訴えました。

自交総連さくら交通労組の河野興委員長が基調報告を行い、「動労千葉の闘いを先頭に、職場からの闘いを基礎に戦争に立ち向かおう」と提起。会社と

案に対する反撃として11月集会に1万人を集ませようとの訴えで集会を締めくくった。(東京西部・動労千葉を支援する会)

星野文昭さんの弟の修三さんとお連れ合いのゆかりさんが、9月5・6日の徳島現地闘争を報告しました。

自治体労働者、女性労働者などの発言に続き、NTT労働者が「安倍がグラグラの今がチャンス。国際連帯で闘い、11・1労働者集会にぜひ行こう。国鉄闘争を軸に世界を変えよう」と訴え、集会を終えました。

人間らしく生きたいから

10・4千葉労働者集会に110人

10月4日、動労千葉とちば合同労組の呼びかけで、「10・4千葉労働者集会」を開催した。両組合の組合員をはじめ、110人が結集した。

司会は、動労千葉の長田執行委員とちば合同労組の古内副委員長。来賓あいさつで、三里塚芝山連合空港反対同盟の伊藤さんが市東さんの農地を守る緊急5万人署名への取り組みとともに10・11全国集会への結果を訴えた。



国鉄闘争全国運動呼びかけ人の山本さん、国会闘争から弾圧粉砕へ闘う全学連からあいさつを受けた。

主催者あいさつで、ちば合同労組の諸町委員長は、「怒りは社会に満ちている。これを動労千葉労働運動と結びつけ千葉県下の労働運動を一緒に作る」と提起。動労千葉からは田中委員

長、争議団の中村執行委員、木科執行委員、CTSから新たに結集した青年が発言した。

木科執行委員は「10・1ストは青年から夢も仕事も奪う会社に鉄槌下すストだった。仕事も人間もそっくり返すまで闘う」と発言。CTSから新たに結集した青年は「動労千葉に入ったのは人間らしく生きたいから。労働運動の力を思い知らせたい」と決意を語った。

また動労千葉を支援する会・木更津が発言に立ち、「10・3安房地区労働者交流会」の成功を報告しました。

ちば合同労組からは、新組合を結成したユニオン習志野、介護職場で分会結成へ闘う仲間から発言を受けました。

決意表明でも新たな闘いに向けたあがっている仲間から次々と発言がされ、熱気あふれる集会としてかちとられた。

動労西日本 組織拡大を実現

9・27広島国鉄集会に70人が結集

広島で9月27日、国鉄集会が開催され70人が結集しました。集会に先立ち広島連帯ユニオンの第28回定期大会も同会場で開催されました。

広島連帯ユニオンの鈴木委員長は開会あいさつで「戦争か、労働者がストで資本家をつぶすのか大きな分岐点だ」と訴え、婦人民主クラブ全国協広島支部の安芸太田町の仲間、広島大学学生自治会が連帯あいさつを行

いました。

動労西日本が特別報告を行い、大江照己委員長が新組合員を紹介。組織拡大の報告に会場がわき立ちました。同じく動労西日本の岡崎組合員が職場(広島印刷事業所) 廃止攻撃に対し「絶対反対で闘う」と決意を語りました。

国鉄闘争全国運動の呼びかけ人の伊藤晃さんが講演。6・30最高裁判決について「国鉄改革

動労水戸迎え塩竈で国鉄集会

9・16みやぎ連帯ユニオン主催

塩竈市で9月16日、「被曝労働拒否を闘う動労水戸の話」を聞く会」をみやぎ連帯ユニオン主催で開催。55人が結集しました。

みやぎ連帯ユニオンの青柳歩副委員長が司会を務め、げやき

権の展望を示しました。広島連帯ユニオン副委員長に就任した矢田三恵さん(高陽第一診療所労組書記長)の基調提起に続いて各職場からの決意表明が行われました。

法を打破った。労働運動の現局面では大事件。闘いはこれからだ」「どんなに小さい運動でも全国的意味を持っている。地域で共有し国際的にも学びながら闘おう」と階級的労働運動復

が「動労水戸30年と被曝労働阻止の闘い」と題して講演を行い、国鉄分割・民営化以来の動労水戸の闘いの歴史を語り、「被曝労働拒否の闘いの中で青年労働者が動労水戸に相次いで結集し、原発労働者・除染労働者との結合が始まっている」と報告しました。

質疑応答では、女川原発再稼働阻止に向けた決意や、高放射線が検出された物資は運ばないという労働組合からの闘いの報告などがありました。みやぎ連帯ユニオンの小原豊副委員長が集会をまとめました。